



学校だより

2月号

横浜市立六つ川台小学校

令和4年1月31日

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

E-mail: ky-e-mutsukawadai@city.yokohama.jp

まな かた ひろ 学び方を広げる

ふくこうちょう こやま まさし
副校長 小山 雅史

新型コロナウイルス感染症拡大の波がまたきました。学校での生活、家庭での生活に長期に渡り影響を及ぼしています。こうした中、学校での子どもたちの学習の仕方が変化してきています。授業でタブレット端末を使い、グループやクラスで互いに意見を交換することができるようになってきました。写真を取り、アプリに読み込んでまとめるということもできるようになってきました。インターネットで検索して調べることができるようになってきました。文字入力も慣れてきています。子どもたちは、あれこれ試行錯誤しながら使い方を習得し、またいろいろな使い方を発見してきました。

記録したり、情報を得たり、表現したりするなどいろいろなことができ、タブレット端末はとても便利な道具ですが、できないこともあります。それは、実際に体験することです。例えば音楽はどうでしょう。3～6年は学年で音楽発表会をしました。互いの声の調子を合わせて怪獣の振付も揃っていた3年生、3拍子の合奏や2部合唱の響きが美しかった4年生、アップテンポなリズムにのってルパン3世のテーマを演奏した5年生。それぞれの学年の持ち味がありました。6年生の発表会では、琴、和太鼓のオープニングから始まり、打楽器のリズムと旋律を奏でる楽器の音色が重なり合って生み出された音が体育館に響き渡る、とても迫力のある千本桜が演奏されました。体に響く感じは生演奏ならではのでした。6年生からは、みんなで音を合わせて演奏できたことが楽しかったという感想がありました。このような思いはどの学年の子どもたちにもあり、練習を重ね、納得のいく演奏ができ、楽しい気持ちや充実感が得られたのだと思います。

こうしたことは、実際の体験がないと得られません。他にも理科の実験や観察、生活科の季節の遊びや体育のハードル走など、実際にやってみることから学べることがあります。何ができて何ができないのか、何が難しく何が簡単なのか、といったことも分かります。こうしたことはタブレット端末ではできません。しかし、一方で、タブレット端末はその体験を動画や写真、文章などさまざまなかたちで記録することができます。こうした面はタブレット端末の得意分野であり、体験からの学びを深める役割を担うことができそうです。

これからの学び方は様々です。プログラミングやオンラインでのやり取りなど進めていこうという声は職員からも上がっており、各クラスで試行しながら進めています。これだけ、それだけ、ではなく、いろいろな見方でそれぞれのよさを組み合わせ、学び方を広げていきたいと考えています。